

平成 29 年度（2017 年度）
事業計画書

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

はじめに	1
1. 環境認識	1
2. 基本方針	1
事業別基本方針	3
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	6
【平成 29 年度の計画概要】	6
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	7
2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	9
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	9
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	10
II. 普及事業（公益目的事業 2）	11
【平成 29 年度の計画概要】	11
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	12
2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）	13
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	14
4. 広報（公益目的事業 2.4）	16
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	17
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	18
【平成 29 年度の計画概要】	18
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）	19
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	19
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	21
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	21
IV. 公益事業共通	22
【平成 29 年度の計画概要】	22
V. 収益事業等	23
【平成 29 年度の計画概要】	23
1. 公認（収益事業等 1）	23
2. 商品販売（収益事業等 2）	24
VI. 法人・管理部門	25
【平成 29 年度の計画概要】	25
1. 会員・会友	25
2. 組織運営	25
3. 常設委員会	25
① 企画委員会	25
② センター協議委員会	25

はじめに

1. 環境認識

国内ブリッジ界は、ここ数年公認クラブやブリッジセンターの閉鎖と新設が続き、プレイヤーを受け入れる側の世代交代が進んでいる一方で、主役となるべき競技会参加者はメンバーが固定化し高齢化している。現役プレイヤーは毎年1つずつ歳をとり、新たな参加者となるべきプレイヤーも、その卵にあたる入門教室受講者の大半が60代、70代であれば、プレイヤー側の世代交代が進んでいかないのも自然の成り行きである。

もちろん、いくつになってもブリッジができるのは素晴らしいことであるし、実際現在のブリッジ界は高齢者が支えているといっても過言ではない。この状況のままでもブリッジ界が急速に衰退するわけではないが、連盟としてブリッジ界の将来を考えると成り行きに任せておくことは許されない。10年、20年という長い時間がかかるかもしれないが、どんな競技会にも若い世代が多数参加しているような未来を目指して、プレイヤー側の世代交代を進めていかなければならない。

若い世代のプレイヤーとしては、全国の大学ブリッジクラブの学生だけでなく、ブリッジ授業の修了者が挙げられる。これまでの普及活動が奏功し、大学授業の受講希望者は毎回定員オーバーという状況で、事実これまで2千人以上の学生がその楽しさを体験してきた。しかし単位を取得しても卒業後ブリッジを忘れずにプレイできる者はせいぜい半分程度と思われ、さらに連盟に入会して毎月のように競技会に参加しているプレイヤーとなると百人にも満たない。

中間世代の30代、40代に向けた広報宣伝やプロモーション活動では目立った成果が見えないが、実際には入門教室受講者の中には現役世代の働く女性も散見されるようになってきた。知名度向上や興味喚起の活動が一定の成果を挙げていることも確かであろう。

2. 基本方針

昨年度の事業計画では、当連盟の中長期的な課題を①財務的に強固な事業基盤を構築する、②普及活動をブリッジセンターに定着させる、③プレイヤーの高齢化に対応する、としたが、前述の状況の下でいずれの課題も道半ばであり、本年度も継続あるいは強化して取り組んでいく必要がある。

- 事業基盤については、ブリッジフェスティバルを隔年開催にしたことで赤字体質から脱却する一応の目処が立ったが、ブリッジセンターの閉鎖や縮小あるいは一時休止など環境が少しでも悪化すると赤字になりかねない危うさは残っている。直接の収益部門が公認料依存にならざるを得ない事業構造では外部環境によるリスクは避けられないとしても、想定される減収には何らかの対策を講じておかなければならない。本年度はさらなる経費削減策を施すだけでなく、積極的な収益増加策を試行していくものとする。
- 普及活動については、助成制度を見直し公認料を減免するなどの施策で、ブリッジセンターによる体験教室や入門講習会が定着してきた。次なる問題は、体験教室参加者があまり増加しないことおよび入門講習会に進む割合が上がっていかないことである。本年度は「優待券進呈キャンペーン」を実施して、まずは体験教室に参加する人数を増加させ、それにつれて入門講習会に進む割合も向上させていく。

- 高齢化対応については、会員会友の年齢構成に注意しながら競技会サービスの改善に取り組んできたが、前述したように構造的な問題は避けがたく、まだまだ若い世代のプレイヤーは数少ない。本年度は、学生リーグの活性化策など成果が目に見える具体的な施策で対応していくことが急務である。

以上を踏まえて、本年度も引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って計画的に事業を実施する。具体的には次の 3 点を基本とした活動を行う。

(1) 収益増加

- 本年度の予算編成に関しては、基本的に来年度想定される赤字をカバーできるだけの黒字を計上し、2 年度通算での収支均衡予算を目指す。具体的には昨年度からブリッジフェスティバル関連を除外し、YehBros 杯開催を追加した 2 億 5 千万円の事業予算で、最終的には 2 百万円程度の黒字決算を見込む。
- 競技会事業においては、会員・会友の高齢化に伴う参加者数の減少を防ぐ競技会運営を検討し、実施を目指す。またディレクターを含めた運営スタッフのレベルの維持向上、ノウハウの継承を支援し、新規プレイヤーの競技会参加定着を図る。

(2) 経費削減

- 本年度は事務局職員の世代交代と事務所賃貸スペース削減で管理費の支出抑制を図る。予算執行にあたっては従来の慣習にとらわれず、収入に応じた賞品提供や効果の出ない普及活動には助成金削減なども検討する。
- 人件費については幹部スタッフが徐々に定年を迎えることから自然減は見込めるが、次代を担う若手職員の新規採用も喫緊の課題である。世代交代のためにはスムーズな業務引継ぎを行う必要があるが、定型業務についてはマニュアル化や作業効率化を図り、無駄を省いて確実性を高めていく。中期的には基幹業務について担当の二重化を進め、幹部職員の兼務化も視野に入れる。
- 事務所賃貸料については、会議室およびディーリングルームを四谷ブリッジセンターの地下フロアに移設し、1 階の該当部分の賃貸契約を解除することで 5%程度の削減を見込んでいる。また移設後のスペースを効率的に使用することで、外部倉庫の物品を一部引き取り、手近な保管場所としても活用していく。
- 普及事業においては、中期計画に基づいて進めた事業の成果に応じ、それぞれの事業の継続、修正または中止を決定した後、本年度新規事業の実施計画とともに、本年度からの中期計画を改めて策定し、それに基づいて効率的な事業展開を進める。

(3) 将来への投資

- 平成 24 年度以降、普及事業ではプロモーション活動に重点を移してきた結果、会員・会友数は順調に増加してきたが、昨年度はやや頭打ちになった。本年度はブリッジセンターと協力関係をいっそう強化して、大学ブリッジクラブの現役学生をはじめ卒業して間もない新社会人や年数回の特定競技会だけしか出場しないような学生リーグ OB に向けた新しいアプローチを試みる。
- そのほか、昨年度提案した新たな形態のブリッジサロンを拡大し、初級プレイヤーにも対象を拡げたさまざまな魅力あふれるプレイ環境を構築していく。

事業別基本方針

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【競技運営】

主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。

【ブリッジフェスティバル】

2015 年以降ブリッジフェスティバルを隔年開催とした。今年度は開催せず、次回は 2019 年 2 月に開催する。2018 年 2 月には横浜スイスチーム、横浜オープンペアのみ開催する。

【競技会の向上】

中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。

【JTOS】

競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）についてはこれまで JTOS 保守グループを組織して保守および新機能の導入を行ってきたが、今後は競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。

【ディレクター育成】

ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。本年度は隔年に実施しているナショナルディレクター養成プログラムを実施する。

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【広報活動】

ブリッジの知名度向上と新規プレイヤーの呼び込みに取り組む。ブリッジのルールや初歩を扱った入門用のブリッジ紹介動画を作成し、YouTube などに公開していく。次代を担う若い新しい層への働きかけを狙う。

【普及用コンテンツ】

普及用の各種コンテンツを整備し、全国のブリッジ普及の現場に有効な選択肢として提供していく。普及用共通スタンダードシステムや入門用の問題やテキストを作成する。

【入門教室】

各センター・クラブと連携し、体験教室や入門コースの参加者の増加を図る。会友会員の知人の継続率の高さを活用して、知人を紹介した会員会友に優待券を配布するキャンペーンを実施する。

【京阪神の普及活動】

大阪、名古屋における普及活動は、カルチャースクールと連携して一般層の取り込みに力を入れていく一方で、若い層は競技会に積極的に誘致して活性化させていく。

【その他各地域の普及活動】

福岡や仙台及びその他の全国各地域の普及活動は、広告宣伝への協力やコンテンツの提供及び講師の育成を行い、地元と連携しながら幅広い支援を行う。

【体験イベント】

ブリッジを知らない人にカードを握って体験してもらう場を開催し、ブリッジの宣伝と新規プレイヤーの獲得を行う。国民文化祭、ねんりんピック、ゲームマーケットなどに出展する。

【体験教室や講習会等の支援】

センター・クラブ・カルチャースクールなどで実施する体験教室や講習会等を支援する。経費負担への助成支援や体験教室に使用する道具類の提供を行う。

【大学でのブリッジ授業の開講】

大学でブリッジ授業を開講することにより、ブリッジを宣伝し社会的認知度の向上を図りながら、若い世代にブリッジを体験する機会を提供する。東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学でそれぞれ実施する。

【ユースの育成】

12歳～25歳の青少年プレイヤーの人数の拡大や技術レベルの向上に取り組む。大学生をメインターゲットとして、講習会や合宿の開催や補助、競技会への招待、活動支援などを行う。

【初心者競技会参加の支援】

初心者競技会への参加を支援する。賞品の充実や地方参加者の無償招待をすることで参加者を増やし、地方の競技参加層を拡大させる。

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【Yeh Bros 杯】

本年度は、2013年4月に続いて2017年7月に Yeh Bros 杯を日本で開催する。ブリッジの普及発展とブリッジを通じた国際交流に努めるとともに、国際競技会運営ノウハウの集積と技術向上をめざす。

【APBF 選手権】

2017年5月28日から6月7日にかけてソウル（韓国）で開催される第51回 APBF 選手権にオープン、ウィメン各1チーム、シニアチームを派遣する。また大会に併せて開催される APBF 代表者会議に役員を派遣する。

【世界選手権】

APBF 選手権の成績により世界選手権出場資格を獲得した場合、8 月 12 日から 26 日にかけてリヨン（フランス）で開催される第 43 回世界ブリッジチーム選手権に代表チームを派遣する。

【世界ユース選手権】

ユース部門では第 51 回 APBF 選手権にジュニア、ヤングスターチームを、8 月 15 日から 24 日までリヨン（フランス）で開催される世界ユース・オープン選手権に代表チームを派遣する。

【アジア競技大会】

2018 年にジャカルタ（インドネシア）で開催されるアジア競技大会においてブリッジ種目が採用された。今後 JOC の認定団体となるよう働きかけを行い、インドネシアコントラクトブリッジ協会とともに、APBF 加盟国・地域の NBO、特に地域内の有力国・地域である中国、チャイニーズ・タイペイ、韓国との連携を強化し、マインドスポーツとしてのブリッジの普及・発展に努める。

【東京オリンピック】

2020 年東京オリンピック・パラリンピックにあわせて日本でのマインドスポーツの世界大会開催を目標に関係団体と協議を行い、実現に向けて活動を進めてゆく。

IV. 収益事業等

① 公認事業（収益事業 1）

- 公認事業関連業務の見直しを行い、システム化、効率化を図り、公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連盟双方の事業基盤が強化されるような態勢の実施をめざす。

② 商品販売事業（収益事業 2）

- 在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

V. 法人・管理部門

- 平成 28 年度に続いて本年度も「新入会無料キャンペーン」を継続する。平成 26 年度から 28 年度の無料キャンペーンで入会した会友の継続状況を調査して、退会者減少のための方策を検討する。一方、未来への財産として、これまでの活動を整理し記録を保管していく事業を継続する。
- 事務局業務の改善に引き続き取り組み、業務の効率化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。
- 進展する高齢化社会に対応可能な事業基盤の構築をめざす。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【平成 29 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、当連盟自らが質の高い各種ブリッジ競技会を開催することはもとより、ブリッジセンター／クラブまたは個人が開催するものも含め競技会全般の質を維持し、よりよい競技機会を広く提供することを目的とする。この目的に照らして、(1) 競技会の主催、(2) 競技会運営環境の整備、(3) ディレクターの養成の 3 事業を行う。

主催競技会の回数と内容を見直し、本年度は昨年度に引き続き移管したリジョナル 5 競技会のブリッジセンター主催を継続する。

これまで 21 回にわたり毎年開催していたブリッジフェスティバルは、平成 27 年 2 月の開催以降隔年開催としたため、今年度は開催せず、平成 30 年 2 月に横浜スイスチーム、横浜オープンペアのみ開催する。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	37,290,000	51,020,000	-13,730,000	
経常費用	65,430,000	90,163,010	-24,733,010	
経常増減	-28,140,000	-39,143,010	11,003,010	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
1.1 競技会の主催	経常収益	37,290,000	51,020,000	-13,730,000	ブリッジフェスティバル開催 せず
	経常費用	41,920,000	68,096,460	-26,176,460	
	経常増減	-4,630,000	-17,076,460	12,446,460	
1.2 競技会運営環境の整備	経常収益	0	0	0	
	経常費用	2,200,000	1,722,800	477,200	
	経常増減	-2,200,000	-1,722,800	-477,200	
1.3 ディレクターの養成	経常収益	0	0	0	
	経常費用	580,000	270,000	310,000	
	経常増減	-580,000	-270,000	-310,000	
1.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	20,730,000	20,073,750	656,250	
	経常増減	-20,730,000	-20,073,750	-656,250	

【事業別計画】

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

(1) 計画概要

① 主催競技会（詳細は次ページ表を参照）

- ・ ナショナル及びリジョナル競技会、日本リーグ、社会人 IMP リーグを開催する。
- ・ リジョナル競技会のセンター移管の追加は、今年度は行わない。移管した 5 競技会については、高い運営レベルを維持するよう支援・監督する。
- ・ 地方からの参加者に対する交通費・宿泊費助成、前年度優勝者招待を継続する。

② ブリッジフェスティバル

- ・ 今年度はブリッジフェスティバルを開催せず、平成 30 年 2 月に横浜スイスチーム、横浜オープンペアのみを開催する。
- ・ パシフィコシリーズ上位 12 名及び地方在住の上位 4 名までを横浜オープンペアに招待する。
- ・ NEC に替わる協賛企業によるブリッジフェスティバルの平成 31 年 2 月開催をめざし、交渉などを行う。

(2) 収支総括

	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	37,290,000	51,020,000	-13,730,000	
経常費用	41,920,000	68,096,460	-26,176,460	
経常増減	-4,630,000	-17,076,460	12,446,460	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
主催競技会	縮小	経常収益	35,070,000	38,700,000	-3,630,000	
		経常費用	39,730,000	41,096,700	-1,366,700	
		経常増減	-4,660,000	-2,396,700	-2,263,300	
ブリッジフェスティバル	縮小	経常収益	2,220,000	12,320,000	-10,100,000	横浜スイスチーム、横浜オープンペアのみ開催
		経常費用	2,190,000	26,999,760	-24,809,760	
		経常増減	30,000	-14,679,760	14,709,760	

JCBL 主催競技会開催予定表

競技会名	日 程	開催日数	場 所	予定卓数
1) ナショナル競技会(全国大会)				
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 15、16 日	2 日	玉川高島屋 S・C/ 四谷 BC	90
全日本地域対抗戦選手権 (関東予選)	5 月 13、14、20、21 日	4 日	四谷 BC	86
藤山杯	7 月 22、23 日	2 日	四谷 BC	50
全日本地域対抗戦選手権 (決勝)	7 月 29、30 日	2 日	グランドホテル 浜松	38
外務大臣杯 (予選・決勝)	8 月 19、20 日	2 日	四谷 BC	60
高松宮記念杯	9 月 16、17、18、 23、24 日	5 日	四谷 BC / 五反田 BS	96
高松宮妃記念杯 (予選・決勝)	10 月 14、15 日	2 日	四谷 BC	76
全日本女子ペア選手権 (予選・決勝)	10 月 21、22 日	2 日	玉川高島屋 S・C/ 四谷 BC	90
ブルーリボン杯	12 月 23 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	90
エンゼル・レッドリボン杯	12 月 23 日	1 日	高田馬場 BC/ 大阪 BC	46
朝日新聞社杯	1 月 6、7、8 日	3 日	四谷 BC/五反田 BS /高田馬場 BC/渋谷 BC	150
2) 日本リーグ				
1 部	前期：4 月・7 月、 後期：12 月・1 月	各 4 日	四谷 BC	16
2 部		各 4 日	四谷 BC	24
3) リジョナル競技会				
柳谷杯	4 月 1、2 日	2 日	四谷 BC/五反田 BS/高田馬場 BC	124
サントリー杯	4 月 29 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	90
井上杯 (予選・決勝)	5 月 27、28 日	2 日	四谷 BC	44
井上歌子杯	5 月 28 日	1 日	四谷 BC	32
渡辺杯	3 月 24、25 日	2 日	四谷 BC	46
4) 社会人リーグ				
社会人 IMP リーグ				15

2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い、新形式の競技会に対応する。
- スコア入力システム（ブリッジメイト）の使用法啓蒙活動、導入支援、貸与を行う。
- 競技会速報システムを改良し使用を推進する。

② 競技会運営環境の整備と維持

- 競技会の規模に応じた競技会場を確保し、運営設備の維持向上に努める。

③ 競技委員会管轄事項

- 上告審理・裁定、公認コンベンションリストの見直し・改正・公表、ディレクター資格の審議・認定、マスターポイント規則の制定・改正を行う。

④ ルール委員会管轄事項

- デュプリケートブリッジの規則 2017 年版の英語版を入手次第、日本語版の翻訳・作成に着手し、デュプリケートブリッジの規則 2017 日本語版の出版を行う。
- 「デュプリケートブリッジの規則」及び競技会運営に関わる諸規則・規定の解釈・通知・公表、上告委員会裁定へのさらなる上告の審理・裁定を行う。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	2,200,000	1,722,800	477,200	
経常増減	-2,200,000	-1,722,800	-477,200	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
競技会運営システム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,450,000	1,456,800	-6,800	
		経常増減	-1,450,000	-1,456,800	6,800	
競技委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	230,000	246,000	-16,000	
		経常増減	-230,000	-246,000	16,000	
ルール委員会	拡大	経常収益	0	0	0	2017 年版規則翻訳経費計上
		経常費用	520,000	20,000	500,000	
		経常増減	-520,000	-20,000	-500,000	

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

① ディレクター講習会

- ・ 例年通り、新人ディレクター育成のための初級ディレクター講習会を、東京で 1 回、地方で 1 回開催する。
- ・ ほかに、クラブディレクターを対象とする講習会、及びセクショナルディレクターをめざす方を対象とする講習会を各 1 回開催する。

② ナショナルディレクター養成プログラム

- ・ 奇数年度である本年度は、ナショナルディレクター養成プログラムを実施する。ナショナルディレクター希望者に対しディレクター試験および実地研修を行う。
- ・ 現役ナショナルディレクターの技能向上のため、認定試験を行う。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	580,000	270,000	310,000	
経常増減	-580,000	-270,000	-310,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
ディレクター講習会	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	90,000	70,000	20,000	
		経常増減	-90,000	-70,000	-20,000	
ナショナルディレクター養成プログラム	拡大	経常収益	0	0	0	プログラム実施年
		経常費用	490,000	200,000	290,000	
		経常増減	-490,000	-200,000	-290,000	

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

(1) 計画概要

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	20,730,000	20,073,750	656,250	
経常増減	-20,730,000	-20,073,750	-656,250	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
管理費 競技会事業部	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,730,000	20,073,750	656,250	
		経常増減	-20,730,000	-20,073,750	-656,250	

II. 普及事業（公益目的事業2）

【平成29年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、ブリッジのことをよく知らない人々の興味・関心を高め、また、あらゆる年齢層のブリッジに対する理解及び技量の向上を促すことにより、マインドスポーツとして文化・スポーツの両方の側面を有するブリッジの普及を図る。具体的には、(1) 体験イベントの開催、(2) 講習会等の開催、(3) 他の団体等による体験イベント・講習会等の実施支援、(4) ブリッジ普及のための広報及びツールの作成・配布の4事業を行う。

平成29年度は「ブリッジのルールや初歩を扱ったブリッジ紹介動画の作成とYouTube等での公開」、「普及用スタンダードシステムや入門用の問題やテキストの作成」、「知人を入門講習会に紹介した会員会友に優待券を配布する講習会活性化策の実施」の3点の実施に力を注ぐ。首都圏は体験や入門講習会の参加者が増加する工夫を行い、その他の各地域はコンテンツやノウハウの提供をしていくことで普及の促進を図っていく。

普及事業部全体としては前年並みのコストで展開する。中心的な継続事業（「体験イベントの開催」、「体験教室や入門講習会の実施支援」、「大学でのブリッジ授業の開講」、「ユースの育成」、「子ども向けイベントの開催」、「プレイヤーズサロン」「初心者競技会の支援」）は、前年並みの規模で実施し細かい改善を行っていく。

(2) 収支総括

	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	70,000	794,000	-724,000	
経常費用	47,400,000	59,033,400	-11,633,400	
経常増減	-47,330,000	-58,239,400	10,909,400	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
2.1 体験イベント の開催	経常収益	70,000	70,000	0	ブリッジフェスティバル開催 せず
	経常費用	1,730,000	2,190,000	-460,000	
	経常増減	-1,660,000	-2,120,000	460,000	
2.2 講習会等の開 催	経常収益	0	0	0	
	経常費用	2,510,000	2,990,000	-480,000	
	経常増減	-2,510,000	-2,990,000	480,000	
2.3 体験教室・講 習会等の実施支 援	経常収益	0	0	0	
	経常費用	14,950,000	17,590,000	-2,640,000	
	経常増減	-14,950,000	-17,590,000	2,640,000	
2.4 広報	経常収益	0	724,000	-724,000	
	経常費用	6,450,000	7,456,600	-1,006,600	
	経常増減	-6,450,000	-6,732,600	282,600	
2.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	21,760,000	28,806,800	-7,046,800	
	経常増減	-21,760,000	-28,806,800	7,046,800	

【事業別計画】

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

(1) 計画概要

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベントを実施する。

① 未経験者用イベント

・出展予定イベントは、国民文化祭、ねんりんピック、霞が関子ども見学デー、関西ジュニアペア基大会、ゲームマーケット東京・関西、サンケイリビング体験イベント。

② 競技会体験イベント

・△100の初心者競技会体験大会を年6回開催する。

③ 子ども向け体験イベント（橋之介くらぶイベント）

・体験教室／入門講習会／練習会／競技会を開催し、15名の新入会を目標とする。

(2) 収支総括

	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	70,000	70,000	0	
経常費用	1,730,000	2,190,000	-460,000	
経常増減	-1,660,000	-2,120,000	460,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
文化・教育関連イベント出展 国民文化祭	前年度並み	経常収益	0	0	0	奈良開催
		経常費用	120,000	120,000	0	
		経常増減	-120,000	-120,000	0	
文化・教育関連イベント出展 ねんりんびっく	前年度並み	経常収益	0	0	0	秋田開催
		経常費用	160,000	160,000	0	
		経常増減	-160,000	-160,000	0	
文化・教育関連イベント出展 その他のイベント	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	540,000	540,000	0	
		経常増減	-540,000	-540,000	0	
一般向け体験イベント フェスタ体験教室	休止・中止	経常収益	0	0	0	ブリッジフェスティバル 開催せず
		経常費用	0	130,000	-130,000	
		経常増減	0	-130,000	130,000	
一般向け体験イベント 初心者大会開催	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	550,000	730,000	-180,000	
		経常増減	-550,000	-730,000	180,000	
子ども向け体験イベント 橋之介くらぶ運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	
子ども向け体験イベント 橋之介くらぶ体験イベント	前年度並み	経常収益	70,000	70,000	0	
		経常費用	340,000	490,000	-150,000	
		経常増減	-270,000	-420,000	150,000	

2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）

(1) 計画概要

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会を開催する。

① インストラクター講習会

・ブリッジに限定しない一般的なスキルアップのためのインストラクター講習会を年 1 回開催する。

② ユース向け講習会

・「ユース育成プロジェクト」の一環としてユース向け講習会を開催し、技術向上支援を行う。

③ プレイヤーズサロンの拡充

・遊びながら上達することを目指すプレイヤーズサロンは、夜間に気軽にプレイできる場所として、口コミや人の繋がりで参加者拡大を図っていく。

④ 普及用システムや入門コンテンツの制作

・新しいパートナーと少ない打ち合わせでプレイするための普及目的のスタンダードシステムを制作する。

・入門者用の問題やテキストを制作して各地の普及活動の現場に提供していく。

⑤ マナー向上や競技会ルールの浸透

・入門講習会で入門者に基本的なマナーやルールを教えるための配布物を作成する。

・競技会に移行済みのプレイヤーにマナーやルールを扱う説明会を開催する。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	2,510,000	2,990,000	-480,000	
経常増減	-2,510,000	-2,990,000	480,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
ブリッジインストラクター講習会	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	220,000	500,000	-280,000	
		経常増減	-220,000	-500,000	280,000	
ユース向け講習会 ユース育成 PJ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,850,000	1,950,000	-100,000	
		経常増減	-1,850,000	-1,950,000	100,000	
プレイヤーズサロン	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	440,000	540,000	-100,000	
		経常増減	-440,000	-540,000	100,000	

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

(1) 計画概要

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体等に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供及びノウハウの提供を行う。

① 一般支援

- ・各種体験教室・講習会等は、規定の範囲内で講師及びアシスタント料や交通費等を助成する。体験は要請があれば用具・教材の提供や連盟職員の派遣を行うことがある。入門講習会は原則として1期12回までの助成とする。
- ・体験イベント支援や海外クラブ支援は、原則として申請に応じて助成する。
- ・地方クラブ支援は、地方クラブ・センターのそれぞれの課題に応じた支援を行う。

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- ・東京大学、早稲田大学、大阪大学、青山学院大学、明治大学の5大学で授業を開講し、これまで培った指導法のさらなる発展を目指す。東京大学は担当教官退官に伴い、後任教授に引き継ぎ、スタッフの交代を実施する。大阪大学では秋学期から春学期開講に移行する。

③ 学校・学生支援

- ・学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立上げ、用具提供）、学生クラブによる他大学の友人・知人へのPR活動推進支援（費用支給）を行う。
- ・学生リーグ主催の学生選手権への参加費用を助成する。

(2) 収支総括

	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	14,950,000	17,590,000	-2,640,000	
経常増減	-14,950,000	-17,590,000	2,640,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
普及活動支援 助成規定・海外ク ラブ支援	縮小	経常収益	0	0	0	体験入門紹介キャン ペーン実施
		経常費用	9,400,000	11,280,000	-1,880,000	
		経常増減	-9,400,000	-11,280,000	1,880,000	
普及活動支援 地方活性化支援	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	90,000	570,000	-480,000	
		経常増減	-90,000	-570,000	480,000	
学校講座支援 大学講座 東京大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：浅井潔
		経常費用	800,000	800,000	0	
		経常増減	-800,000	-800,000	0	
学校講座支援 大学講座 早稲田大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：並木亮
		経常費用	1,460,000	1,480,000	-20,000	
		経常増減	-1,460,000	-1,480,000	20,000	

学校講座支援 大学講座 大阪大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:大橋正幸
		経常費用	530,000	460,000	70,000	
		経常増減	-530,000	-460,000	-70,000	
学校講座支援 大学講座 青山学院大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:島村京子
		経常費用	1,010,000	1,160,000	-150,000	
		経常増減	-1,010,000	-1,160,000	150,000	
学校講座支援 大学講座 明治大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:清水映樹
		経常費用	620,000	630,000	-10,000	
		経常増減	-620,000	-630,000	10,000	
学校・学生の普及 活動支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,040,000	1,210,000	-170,000	
		経常増減	-1,040,000	-1,210,000	170,000	

4. 広報（公益目的事業 2.4）

(1) 計画概要

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行う。

① 広報宣伝活動

- ・体験教室、入門講習会開催告知のための全国一斉広告を年 2 回実施する。
- ・ブリッジのルール、初歩の知識、テクニックを扱ったブリッジ紹介動画を制作し、YouTube やホームページ等で公開する。
- ・メディア広告、地域イベント参加やブリッジ図書寄贈などの PR 活動を行う。
- ・機内誌にパズル問題を毎号出稿し、ウェブサイトにて解答・解説を掲載する。
- ・「普及通信」ウェブ版を隔月更新する。

② プロモーション活動

- ・気軽にできる無料ウェブ検定（級位認定試験）をウェブサイトで公開する。
- ・オンラインのゲーム環境として、BBO に開設した JCBL 専用ルームを充実させる。
- ・全国のブリッジセンター・ブリッジクラブと一体になったプロモーション制度の設計や競技会出場回数の少ない会員・会友を対象にした活性化キャンペーンを展開する。

③ 出版物の刊行

- ・ブリッジをテーマにした小説・マンガの制作と出版を行う。

④ ウェブサイト運営

- ・助成に関するディレクトリを見直し、わかりやすく見やすい構成に変更する。

⑤ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配付

- ・広報ツールやパンフレットの企画・開発を行う。プロモーショングッズを必要に応じて製作または購入する。

(2) 収支総括

	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	0	724,000	-724,000	
経常費用	6,450,000	7,456,600	-1,006,600	
経常増減	-6,450,000	-6,732,600	282,600	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
広報宣伝活動	縮小	経常収益	0	724,000	-724,000	ブリッジ紹介映像作成
		経常費用	5,900,000	6,964,000	-1,064,000	
		経常増減	-5,900,000	-6,240,000	340,000	
出版 入門コース教材 作成	新規	経常収益	0	0	0	普及スタンダード作成
		経常費用	160,000	0	160,000	
		経常増減	-160,000	0	-160,000	
ウェブサイト JCBL ウェブサイト の運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	265,000	268,000	-3,000	
		経常増減	-265,000	-268,000	3,000	

ウェブサイト 普及通信の編集 発行	前年度並み	経常収益	0	0	0
		経常費用	25,000	24,600	400
		経常増減	-25,000	-24,600	-400
広報ツールの作 成・配付	縮小	経常収益	0	0	0
		経常費用	100,000	200,000	-100,000
		経常増減	-100,000	-200,000	100,000

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

(1) 計画概要

- 普及ネットの運営
- 普及に関わる JCBL 公認資格制度確立のための制度設計
- ブリッジインストラクター登録管理と登録証発行（3月）
- 普及事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	21,760,000	28,806,800	-7,046,800	
経常増減	-21,760,000	-28,806,800	7,046,800	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
普及ネットプロジェクト	休止・中止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	40,000	-40,000	
		経常増減	0	-40,000	40,000	
管理費 普及事業部	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	21,760,000	28,766,800	-7,006,800	
		経常増減	-21,760,000	-28,766,800	7,006,800	

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【平成 29 年度の計画概要】

(1) 計画概要

ブリッジは世界に多くの競技人口を有していることから、ブリッジを通じた国際交流を図ることは、国際親善・国際相互理解促進にとって有意義である。このため、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を行う。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	24,270,000	654,000	23,616,000	
経常費用	46,540,000	23,158,725	23,381,275	
経常増減	-22,270,000	-22,504,725	234,725	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
3.1 国際競技会の主催	経常収益	23,910,000	114,000	23,796,000	平成 29 年 7 月 Yeh Bros 杯開催
	経常費用	23,760,000	0	23,760,000	
	経常増減	150,000	114,000	36,000	
3.2 国際競技会への参加費用助成	経常収益	360,000	540,000	-180,000	
	経常費用	18,440,000	17,458,000	982,000	
	経常増減	-18,080,000	-16,918,000	-1,162,000	
3.3 国際的競技団体との交流	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,150,000	1,193,125	-43,125	
	経常増減	-1,150,000	-1,193,125	43,125	
3.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	3,190,000	4,507,600	-1,317,600	
	経常増減	-3,190,000	-4,507,600	1,317,600	

【事業別計画】

1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

(1) 計画概要

今年度は7月3日から7日の日程で2017 Yeh Bros 杯を開催する。

平成 32 年（2020 年）のオリンピック・パラリンピック東京大会に合わせ、日本でのマインドスポーツの国際大会開催を目標に開催資金の積立を行う。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	23,910,000	114,000	23,796,000	
経常費用	23,760,000	0	23,760,000	
経常増減	150,000	114,000	36,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
APBF 選手権/コングレス		経常収益	114,000	114,000	0	国際大会開催準備金
		経常費用	0	0	0	受取利息のみ計上
		経常増減	114,000	114,000	0	
Yeh Bros 杯	新規	経常収益	23,796,000	0	23,796,000	
		経常費用	23,760,000	0	23,760,000	
		経常増減	36,000	0	36,000	

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

(1) 計画概要

① 日本代表選抜

- 日本代表選抜試合を開催し、平成 30 年にインドネシアで開催される第 18 回アジア競技大会に派遣するオープン、ウィメン、ミクスト各 1 チームおよびバングラデシュで開催予定の 2018 年アジアカップに派遣するオープン、ウィメン、シニア各 1 チームの日本代表を選抜する。遠隔地からの参加者には、交通費と宿泊費を助成する。
- 代表チームの国内競技会参加費及び練習会の費用を助成する。

② 国際競技会派遣

第 51 回 APBF 選手権

5 月 28 日から 6 月 7 日にソウル(韓国)で開催される第 51 回 APBF 選手権にオープン、ウィメン各 1 チームおよびシニア 2 チームの選手、キャプテンの派遣を行う。

第 43 回世界ブリッジチーム選手権

第 51 回 APBF 選手権の成績により世界選手権の出場資格を獲得した場合、8 月 12 日から 26 日にリヨン（フランス）で開催される第 43 回世界ブリッジチーム選手権に日本代表（オープン、ウィメン、シニア）最大 3 チームの派遣を行う。

- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給する。

③ 国際競技会派遣（ユース）

本年度は以下の競技会への参加を支援する。

- 第 51 回 APBF 選手権（グレードⅠ）
- 世界ユースオープン選手権（グレードⅡ）
- 世界大学選手権（グレードⅢ）

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	360,000	540,000	-180,000	
経常費用	18,440,000	17,458,000	982,000	
経常増減	-18,080,000	-16,918,000	-1,162,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
日本代表選抜	前年度並み	経常収益	360,000	540,000	-180,000	
		経常費用	1,390,000	1,492,000	-102,000	
		経常増減	-1,030,000	-952,000	-78,000	
国際競技会派遣 APBF 選手権/アジアカップ	新規	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,030,000	0	3,030,000	
		経常増減	-3,030,000	0	-3,030,000	
国際競技会派遣 世界選手権	縮小	経常収益	0	0	0	APBF 選手権成績により世界ブリッジチーム選手権に代表派遣
		経常費用	8,810,000	10,488,000	-1,678,000	
		経常増減	-8,810,000	-10,488,000	1,678,000	
国際競技会派遣 その他	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	300,000	300,000	0	
		経常増減	-300,000	-300,000	0	
国際競技会派遣 日本代表ユニフォーム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	540,000	540,000	0	
		経常増減	-540,000	-540,000	0	
ユース育成プログラム APBF/コングレス派遣	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	2,340,000	1,616,200	723,800	
		経常増減	-2,340,000	-1,616,200	-723,800	
ユース育成プログラム 世界選手権派遣	休止・中止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	2,030,000	-2,030,000	
		経常増減	0	-2,030,000	2,030,000	
ユース育成プログラム 世界選手権/大学選手権	新規	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,430,000	0	1,430,000	
		経常増減	-1,430,000	0	-1,430,000	
ユース育成プログラム その他国際 競技会参加支援	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	600,000	991,800	-391,800	
		経常増減	-600,000	-991,800	391,800	

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施する。

- ① APBF 代表者会議への役員の派遣
 - ・平成 29 年 5 月にソウルで開催される APBF 代表者会議に日本からの役員を派遣する。
- ② 世界同時大会への参加
 - ・平成 29 年 6 月 2 日、3 日に開催される世界同時大会開催に参加協力する。
- ③ 海外競技会に参加する会員・会友の支援と海外への情報提供・収集
 - ・ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催予定情報を提供する。
 - ・APBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
 - ・WBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
- ④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員に提供する。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,150,000	1,193,125	-43,125	
経常増減	-1,150,000	-1,193,125	43,125	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
国際的競技団体との交流	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,150,000	1,193,125	-43,125	
		経常増減	-1,150,000	-1,193,125	43,125	

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

(1) 計画概要

国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	3,190,000	4,507,600	-1,317,600	
経常増減	-3,190,000	-4,507,600	1,317,600	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
管理費 国際交流事業部	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,190,000	4,507,600	-1,317,600	
		経常増減	-3,190,000	-4,507,600	1,317,600	

IV. 公益事業共通

【平成 29 年度の計画概要】

(1) 計画概要

基本財産運用益及び会費収入の 50%を公益事業及び法人会計にそれぞれ繰り入れ、公益事業活動の原資とする。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	17,010,000	16,981,650	28,350	
経常費用	0	0	0	
経常増減	17,010,000	16,981,650	28,350	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
公益事業共通		経常収益	17,010,000	16,981,650	28,350	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	17,010,000	16,981,650	28,350	

V. 収益事業等

【平成 29 年度の計画概要】

(1) 計画概要

公認事業は競技会事業部が、商品販売事業は事務局が担当する。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	154,210,000	150,848,480	3,361,520	
経常費用	37,960,000	39,988,780	-2,028,780	
経常増減	116,250,000	110,859,700	5,390,300	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
1 公認	経常収益	134,110,000	130,748,480	3,361,520	
	経常費用	20,610,000	21,650,780	-1,040,780	
	経常増減	113,500,000	109,097,700	4,402,300	
2 商品販売	経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
	経常費用	17,350,000	18,338,000	-988,000	
	経常増減	2,750,000	1,762,000	988,000	

【事業別計画】

1. 公認（収益事業等 1）

(1) 計画概要

「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」に定める条件を満たしブリッジの普及に努める団体を公認クラブ及び公認ブリッジセンターとして承認し、その活動を支援するとともに、同規則その他当連盟の定める諸規程に基づいてこれらの団体が開催する競技会を公認競技会として承認する。公認競技会における各競技者の成績は、公式な成績としてマスターポイントを発行し、記録・管理する。

公認事業関連業務の見直しを行い、システム化と効率化を図る。

「センター協議委員会」を中心に公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターとの協議を継続し、公認料制度の見直しを含め、ブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方を検討していく。

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲームを公認する。
- ナショナル、リジョナル、セクショナル、IMP リーグの公認料率は参加料の 22%を継続する。ブリッジセンターについては平成 28 年度の普及活動実施状況により、平成 29 年度の公認料率を決定する。
- ユースプレイヤーに対する競技会参加料割引を実施する。

② マスターポイントの認定・管理

- ・ マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行う。

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- ・ ブリッジクラブ及びブリッジセンターを公認する。
- ・ 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努める。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行う。
- ・ 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置及びバリアフリー工事支援事業を行う。

② 競技会開催支援

- ・ 地方リジョナル開催時のディレクター派遣費用の支援を行う。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	134,110,000	130,748,480	3,361,520	
経常費用	20,610,000	21,650,780	-1,040,780	
経常増減	113,500,000	109,097,700	4,402,300	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
競技会の公認	縮小	経常収益	134,110,000	130,748,480	3,361,520	
		経常費用	19,410,000	20,418,780	-1,008,780	
		経常増減	114,700,000	110,329,700	4,370,300	
コントラクトブリッジクラブの公認と育成	前年度並み	経常収益	0	0	0	AED 購入及びバリア
		経常費用	1,200,000	1,232,000	-32,000	フリー工事助成
		経常増減	-1,200,000	-1,232,000	32,000	地方リジョナル支援

2. 商品販売（収益事業等 2）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の販売を行う。在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備考
経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
経常費用	17,350,000	18,338,000	-988,000	
経常増減	2,750,000	1,762,000	988,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備考
商品販売事業	縮小	経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
		経常費用	17,350,000	18,338,000	-988,000	
		経常増減	2,750,000	1,762,000	988,000	

VI. 法人・管理部門

【平成 29 年度の計画概要】

(1) 計画概要

1. 会員・会友

① 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行する。今後会報発行の頻度を削減することが可能か検討する。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行、部数：7,700 部

『JCBL HANDBOOK』 毎年 5 月 1 日発行、部数：7,900 部

② JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加えて、欠落していた図書の追加購入を行う。

③ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施する。

入会キャンペーン 前年度に引き続き新規入会者の会費を平成 30 年 3 月まで無料にする「新入会無料キャンペーン」及び、紹介者に QUO カードを進呈する「紹介キャンペーン」を実施する。

ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。
各ブリッジセンターで開催されるビギナーズ杯に抽選で招待する。

2. 組織運営

- ・ 事務局業務の改善に引き続き取り組む。組織運営体制及び事務局の人員体制の変更を勘案して、業務の効率化を推進する。
- ・ 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。

3. 常設委員会

① 企画委員会

- ・ 企画委員会は、毎年度の予算及び事業計画の策定のほか、10 年後の連盟及び会員・会友のあり方を想定して事業部ごとの中期計画を策定することと、連盟のさまざまな制度の見直しと改革を使命とする。
- ・ 今年度も、引き続いて連盟の中長期的な財政基盤の充実と、現在のブリッジの競技環境の維持が最大の課題となる。昨年度導入された「記録保管制度」の定着をはじめ、競技会参加者数の増加に資する方策などを講じていく。

② センター協議委員会

- ・ センター協議委員会は、競技会と普及活動の拠点であるブリッジセンターと当連盟との協力関係の構築を使命とする。
- ・ この 2 年間では、連盟とブリッジセンターとの新しい会計基準の導入、対応の難しいプレイヤーに関するガイドラインの策定、体験教室・入門教室などに関する助成制度の見直しや追加などについて、ブリッジセンターの視点や意見も活かした導入を実現させている。
- ・ 今年度も、連盟の新しい制度などブリッジセンターの協力が必要なものなどについて、協議を通じて円滑な導入をめざす。

(2) 収支総括	29 予算	28 予算	前年差	備 考
経常収益	17,370,000	17,336,650	33,350	
経常費用	50,730,000	42,724,500	8,005,500	
経常増減	-33,360,000	-25,387,850	-7,972,150	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	29 予算	28 予算	前年差	備 考
会員・会友 刊行物の発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,558,000	3,558,000	0	
		経常増減	-3,558,000	-3,558,000	0	
会員・会友 JCBL ライブラリー	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	5,522,000	290,000	5,232,000	
		経常増減	-5,522,000	-290,000	-5,232,000	
会員・会友 キャンペーン	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	280,000	280,500	-500	
		経常増減	-280,000	-280,500	500	
組織運営 管理部	拡大	経常収益	17,370,000	17,336,650	33,350	
		経常費用	41,370,000	38,596,000	2,774,000	
		経常増減	-24,000,000	-21,259,350	-2,740,650	